

平成29年度
全国学力・学習状況調査の
結果の分析と考察

長沼町の児童生徒の 学力や生活習慣は？

【 長沼町教育委員会 】

平成30年1月発行

○全国学力・学習状況調査について（平成29年4月18日実施）

この調査は、

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること
- (2) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てること

という目的で、平成19年度から文部科学省が実施しています。教育委員会では長沼町教育の充実に資するため、これまでの調査と一定の継続性を保ちながら、今年度も、町内の全小学校「6学年」及び中学校「3学年」を対象に本調査に参加しました。

今年度の調査における全体的な学力・学習状況については、全国・全道とほぼ同様の傾向にあります。学力面では、小学校では、主として「知識」に関する問題（以下A問題）について、おおむね達成されているものの、主として「活用」に関する問題（以下B問題）に課題が見られ、中学校では、A問題・B問題ともに、おおむね達成されたものの、特に数学のB問題の一部に課題がみられます。また、学習習慣や生活習慣に関する状況については、全道と同様な傾向にありますが、家庭での計画的な学習の短さ、テレビ視聴・ゲーム・スマートフォンなどメディアに触れる時間の多さなどの課題が見られます。

教育委員会としては、これまでの取組の成果と課題を客観的に判断し、今後の対策を明確にしていくことが重要であり、子供たちの学力向上のためには、保護者、町民の皆様と成果と課題などを共有し、学校・家庭・地域が一体となって取り組むことが不可欠であると考えています。

調査結果については全国・全道との比較ではなく、過去の問題の傾向から、

「達成」 正答率 A問題80%以上 B問題60%以上

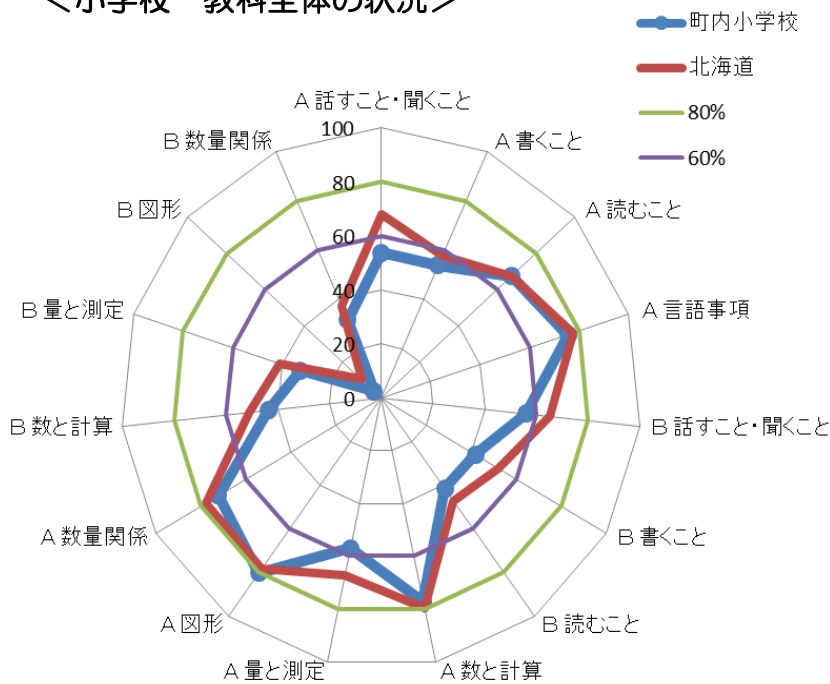
「おおむね達成」正答率 A問題60%以上80%未満 B問題40%以上60%未満

「課題」 正答率 A問題60%未満 B問題40%未満 と表記しています。

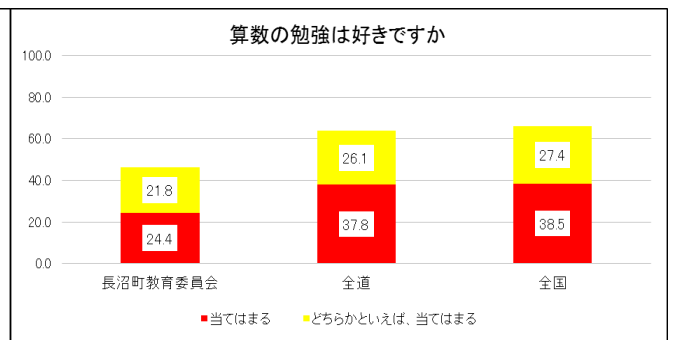
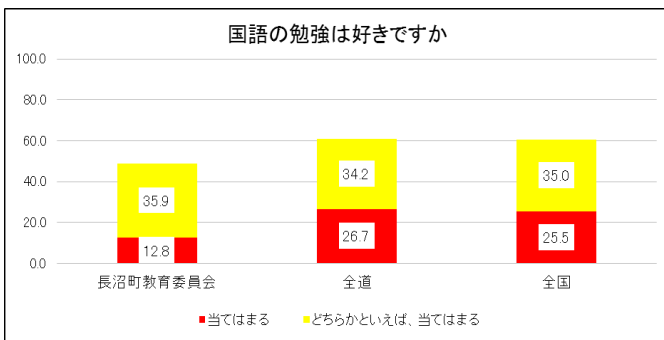
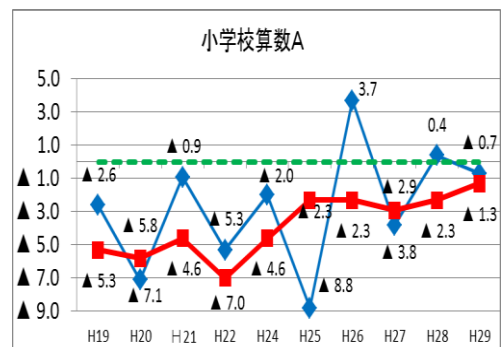
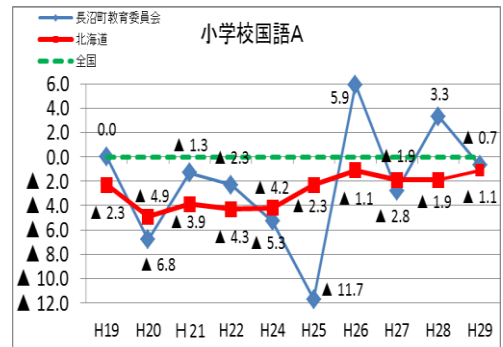
また、成果や課題の中から特に指導の改善が必要であるものは、その出題の趣旨を踏まえ児童生徒に身に付けさせなければならない力を分析し、授業改善を通して児童生徒一人一人に確かな学力が身に付くことを目指しているところです。

長沼町の児童生徒の学力の傾向

<小学校 教科全体の状況>



<平均正答率の全国との差の推移>



国語A（知識）～おおむね達成～

- 文を読み取る際、説明や話し合いの内容から関連づけて読み取ることができるよう指導する必要がある。
- 手紙の書き方については、該当学年だけではなく、継続的な指導が必要である。

国語B（活用）～おおむね達成～

- 内容の読み取り、自分の考えや感じたことを具体的に話したり、書いたりする指導が継続して必要である。

算数A（知識）～おおむね達成～

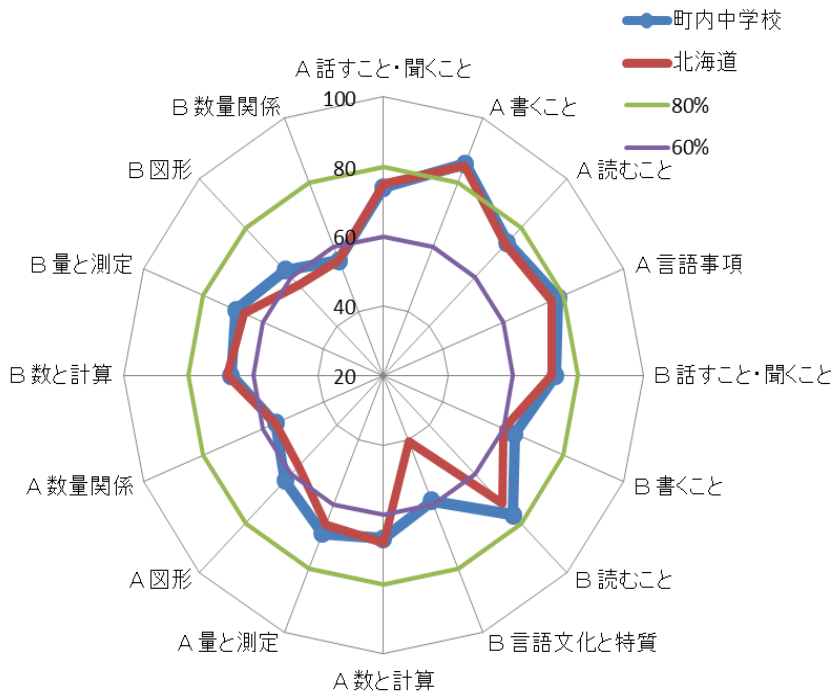
- 加法と乗法の混合した四則計算など、基礎的な内容の定着を計る必要がある。
- 日常生活に単位量当たりの大きさを取り入れ、活用できる指導の充実が必要である。

算数B（活用）～課題がある～

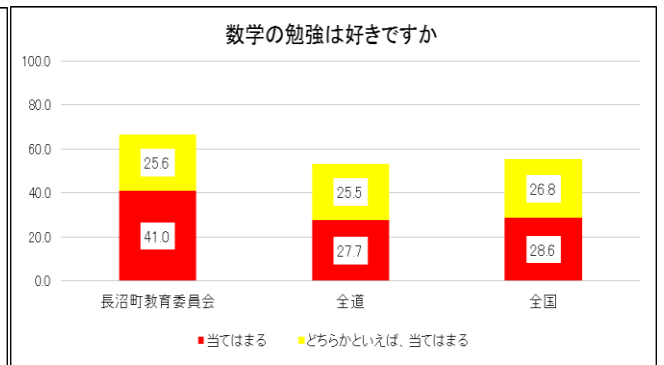
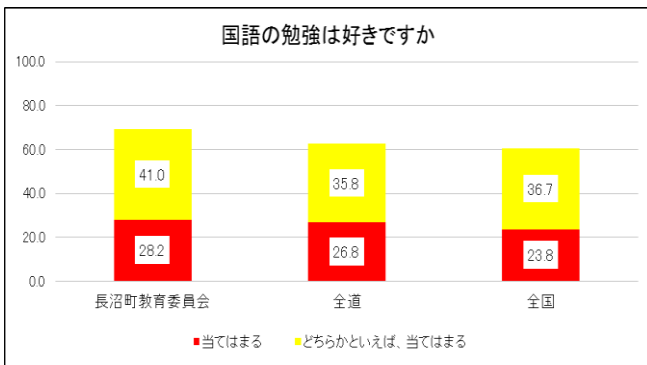
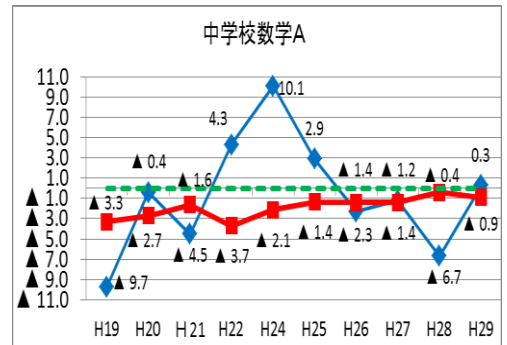
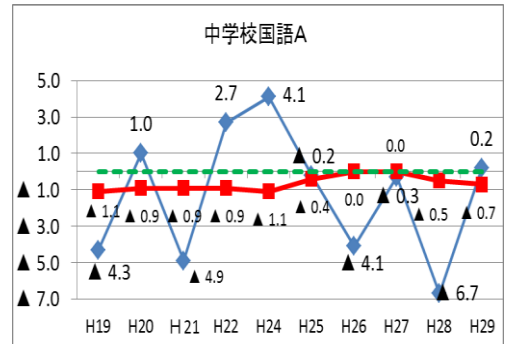
- 考え方を説明する記述式の問題に課題がある。算数の用語を適切に用いて、説明ができるようにする指導が必要である。
- 問題を丁寧に読み、図や数直線に表したりしながら、基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることの指導が継続して必要である。

※ 全体的に記述式問題の正答率が低いため、「書くこと」に重点を置いた指導を充実させます。

<中学校 教科全体の状況>



<平均正答率の全国との差の推移>



国語A（知識）～おおむね達成～

- ・漢字の読み書きは比較的定着している。
- ・言語への関心を高め、辞書等を活用しながら考える、言語感覚を豊かにさせる指導が必要である。

国語B（活用）～おおむね達成～

- ・「書くこと」の領域が低く、特に記述式設問の無回答率が高い。根拠を明確にして、自分の考えを書くことができるようにする指導が必要である。

数学A（知識）～おおむね達成～

- ・基礎的・基本的な知識・技能の一層の定着を図る必要がある。事柄や数量の関係を捉え、その関係を文字式に表したり、具体的な数や言葉を使った式で表したりする活動を取り入れた指導が必要である。

数学B（活用）～おおむね達成～

- ・数量関係や判断の理由を数学的に表現し、説明を記述する問題に課題がある。資料を用い、筋道を立てながら、資料を用いて傾向を捉え、問題解決の方法を説明したり、判断することができるようにする指導が必要である。

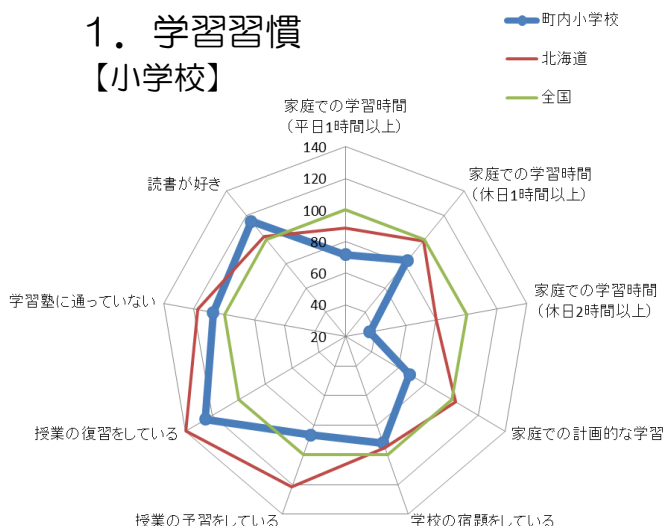
※ 全体的な傾向として、主に記述式問題の正答率が低いため、「書くこと」に重点を置いた指導を充実させます。

児童生徒の学習習慣や生活習慣の傾向 ～児童生徒質問紙調査から～

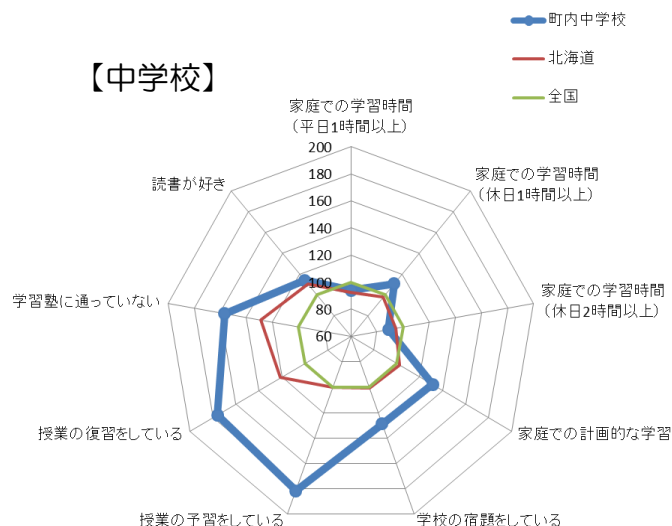
○生活習慣や学習環境に関する質問を
学習習慣、生活習慣、自尊感情・規範意識などの三つの項目におおまかに
分類し、本町の傾向を分析しています。（全国の値を100とみています）

1. 学習習慣

【小学校】



【中学校】



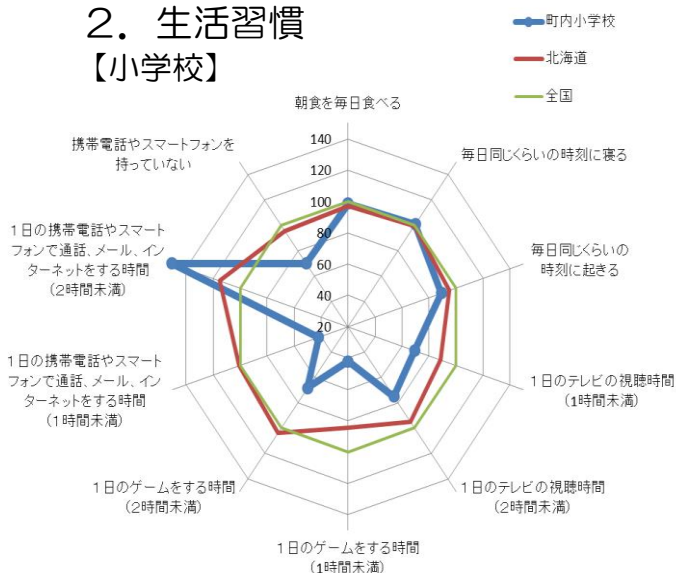
- 平日の授業時間以外の学習については、「全くしない」の回答が減少しているものの、特に小学校の学習時間が短い傾向にある。学校の宿題をしているとの回答は、小学校は全道並み、中学校は全道平均を上回っており、定着してきている。
- 休日の学習についても、特に小学校の学習時間が短い傾向にある。
- 読書が好きとの回答は、小学校・中学校共に全道平均を超えており高い傾向にある。

○家庭での学習への質と量の確保のため、実態に合った家庭学習の課題を出すとともに、主体的に学習に取り組めるよう、具体的な指導を行う必要がある。

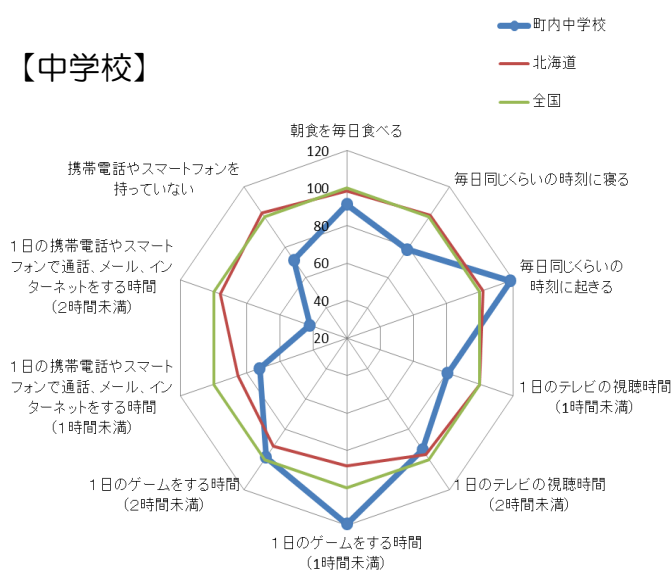
○学校における教育活動の中だけでなく、あらゆる機会を通して、読書の楽しさを知らせ、読書の質を上げていく指導が必要である。学校図書館や町図書館など関係者が相互に連携した取組を進める必要がある。

2. 生活習慣

【小学校】



【中学校】



- 朝食を毎日食べている児童生徒は、小学校では約85%、中学校では約75%と若干低い傾向にある。
- 規則正しい就寝・起床については、就寝時刻が、小学校で約40%、中学校では約25%、起床時刻は、小学校が約53%、中学校では約66%が決まった時間と回答しており、やや不規則な面が見られる。
- 1日の「テレビ、ビデオ・DVD」の視聴については、2時間以上との回答が、小学校では約70%、中学校では約50%と視聴時間が長い傾向にある。
- 1日の「テレビゲーム、携帯ゲームなど」をする時間については、4時間以上との回答が、小学校では約27%あり非常に長く、中学校では約13%と長い傾向にある。
- 1日の「携帯電話・スマートフォン」を使用する時間については、4時間以上との回答が、小学校では約20%あり非常に長く、中学校でも約23%と非常に長い傾向にある。
- 携帯電話の所持については、小学校で約70%、中学校で約90%が持っていると回答しており、昨年度よりも増加している。

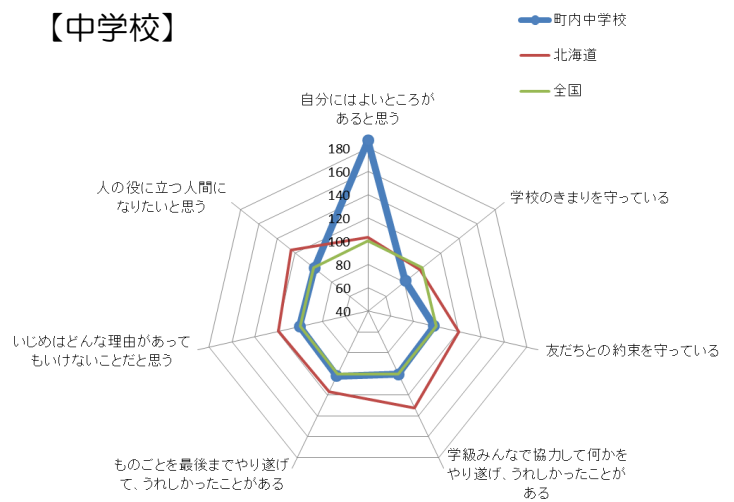
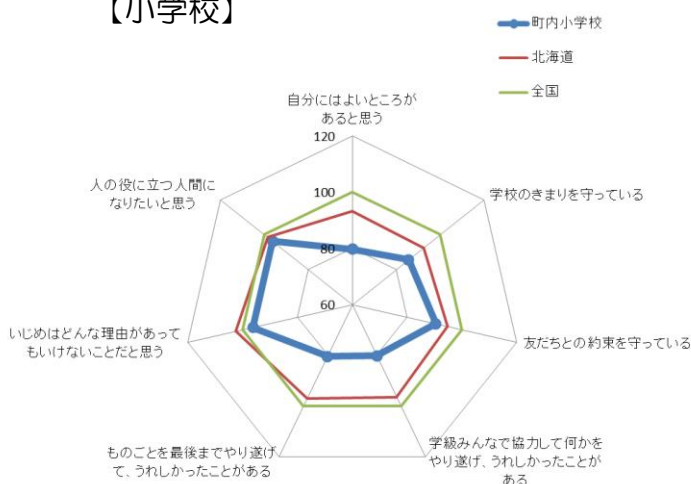
○生活リズムチェックシートなどを活用し、家庭との連携を一層強め、学習習慣や生活習慣の改善・向上を図る必要がある。

○携帯電話やスマートフォンなど、メディアと接触する時間については、所持率の上昇を鑑み、一層のモラル教育の充実を図り、使用のルールをきちんと定めるよう働きかける必要がある。

3. 規範意識・自尊意識について

【小学校】

【中学校】



- 学校のきまりについては、小学校では約85%、中学校では約80%が守っていると回答しており、全道・全国と比較して意識が若干低い。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」については、小学校・中学校ともに約90%がそう思うと回答している。
- 「自分にはよいところがある」については、小学校では、約70%の回答であり、自分の良さについての自己評価が低い傾向であったが、中学校では、約90%の回答であり非常に高い傾向であった。
- 「ものごとをやり遂げてうれしかった」「学級みんなで協力してうれしかった」については、全道・全国と比較して小学校での回答は低めの傾向にあるが、中学校では高い傾向にある。

○道徳の時間を中心とした心の成長を促す教育（自尊感情を高める、他者を思いやる、成就感を高める、規範意識の醸成など）の一層の指導の充実が必要である。

○将来の夢を持たせるキャリア教育など、自分の可能性を伸ばす指導の一層の充実が必要である。

長沼町の児童生徒の学習と生活の充実のために

◎ 学校では、それぞれの学校の実態に応じた学力向上のための「学校改善プラン」を作成し、具体的な数値目標を設定した上で、その改善に向けて計画的に取り組んでいます。

- 1 基礎的・基本的な学習内容の確実な習得に努めます。
 - (1) 学習の指導方法や授業の工夫改善に努めるなど、研修に努めます。
 - (2) 学校全体で統一感のある、学習規律や教室環境を徹底します。
 - (3) 放課後や長期休業中の学習のサポート、チャレンジテストの活用、宿題や家庭学習など、学びの意欲を高める取組を支援します。
- 2 子供の自尊感情を育てる取組を推進します。
 - (1) 一人一人の子供に寄り添った「わかる」授業づくりを継続します。
 - (2) 道徳の授業を充実させ、学校行事等の教育活動全般で、児童生徒に自信を持たせたり、成就感を持たせたり、自分の良さに気付かせたりする活動を意図的に計画し取り組みます。
- 3 子供の体力向上の取組を推進します。
 - (1) 新体力テストに学校全体で取り組み、継続的な指導を行います。
 - (2) 各校で特色のある体力向上策「1校1実践」を推進します。

◎家庭・地域では、学校、PTAと連携・協力して、子供の生活習慣を見直し、家庭学習や読書習慣の定着に向けた取組をお願いします。

- 1 「早寝・早起き・朝ごはん」による生活リズムの確立に努めましょう。
- 2 確かな学力を育むため、宿題や家庭学習（予習・復習）の時間の確保など、学校と協力して学習習慣を改善しましょう。
- 3 テレビ・ビデオ、ゲーム、携帯電話・スマートフォンなどについて、家庭でのルールづくりをし、利用のさせ方に留意しましょう。
- 4 家庭での手伝いや勤労体験を通し、家族の一員としての自覚を育みましょう。
- 5 地域の大人が子供に関わり、子供たちの地域や社会への関心を高め、地域ぐるみで子育てを推進しましょう。

◎教育委員会では、学校と連携して、子供たちの確かな学力の定着に向けた取組を進めていきます。

町学習支援員や非常勤講師の配置を生かしたきめ細やかな少人数指導体制の充実、ICT関連教育機器の充実、小小・小中連携事業の取組など、教育環境と指導の在り方を充実させます。また、放課後や長期休業中の学習サポートや子供の安全見守りなどの学校支援活動をはじめ、放課後子供教室や土曜学習の実施などによる家庭教育への支援を通して、地域教育活動を活性化するための取組を推進し、一人一人の子供たちが学びやすい環境づくりを進めます。